

第0章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

DOLPHINROSE

AC 無料講座

第8章

『質問の仕方』





目次

1. ごあいさつ
2. 質問ってどうやってするの
3. 取り調べになっていませんか？
4. 2 - 3 歳児の人間の子どもを想定する
5. YES、NO の質問

※本教材、および収録されているコンテンツは、著作権、知的財産権によって保護されております。

教材に含まれているコンテンツを、その一部でも、書面による許可(ライセンス)なく複製、

改変するなどして、またあらゆる データ蓄積手段により複製し、

オークションや インターネット上だけでなく、転売、転 載、配布等、いかなる手段においても、

一般に提供することを禁止します。

1.

ごあいさつ

第8章では『動物への質問の仕方』について説明していきますね。

ACで「肝」になる部分が実は、この「質問の仕方」です。

ACを習ったけれども、動物に質問をしても返事が返って来ません…

という方がいらっしゃいますが、もしかしたら、この「質問の仕方」をきちんとマスターしてないだけなのかもしれません。

質問は「右脳」だけでなく「左脳」も同時に使う作業になってきます。

感じながら、考えながら質問をする練習をしてみましょう♪

2. 質問ってどうやってするの？

ACをする際、コミュニケーションの手段が「言葉」だけではない…
ということは、皆さんご存知のことと思います。

ACは「言葉」以外に五感も第六感も両方使ってコミュニケーションを図っていきます。

こちらから質問する際、「イメージを飛ばす」「イメージを送る」という風に学ばれている方もいらっしゃるかもしれませんが。

でも、実際はそこまで「送る」ことに拘らなくても、質問の内容を自分が「体感」することで動物たちには十分伝わります。

投げかけたり、送るイメージではなく、自分は動かないまま想念だけでお話す感じですよ。

電話で話す時、相手のところまで言葉を届けようとか、言葉を送ろうとか考えず、ただその場で受話器を持ってお話ししますよね？

その状態と一緒にです(^_-)-☆

そして「イメージ」という言葉だけが独り歩きしてしまっていますが、質問をする際に**ビジョンだけでなく、五感全てで感じる**ことがとても大切です。

ここで、前にお話した「五感を鍛える」という練習が力を発揮してきます。

それから、五感を感じる場合、必ず動物たちの目線になって感じて下さいね。

動物たちは自分の姿を外から見たことがないですし、自分目線で感じてくれた方がより伝わりやすいのです。

例えば…

「最近病院に行ったでしょ？」と伝えたい時、

病院内の風景をイメージするだけでなく、

冷たい緑色の台、入院中や預かり中の犬たちが吠える声、獣医さんっぽい人、看護師っぽい人、消毒の匂い、診察台の上のライトのまぶしさ……

などを自分の五感で感じます。

そしてその感覚に「こんなことあったでしょ？」という気持ちをプラスすることで、動物たちには質問として届きます。

五感全てを使ってイメージしながら自分がしっかり感じる

これが質問のコツです(^_-)-☆

3. 取り調べになっていませんか？

あなたのその質問。

警察の取り調べになっていませんか？

初対面の動物たちとお話する際、あなたは、動物たちと仲良くなる前に、いきなり「質問」から入っていないでしょうか？

いきなりではなかったにしても、「こんにちは」とあいさつをしてすぐに質問していないでしょうか？

自分に置き換えて考えてみましょう。

見ず知らずの人が近寄って来て、「こんにちは♪」と言われ、その後すぐに「あなたの家の住所はどこですか？」と聞かれたら、あなたは個人情報を即答するでしょうか？

まずはそれよりも先に動物からの信頼を得ることが大切です。

最初に自分からハートを開き、動物たちからもハートを開いてもらった時、初めてACが成立するのです。

すぐにでも質問したい気持ちを抑えて、慌てず、焦らず、まずは、しっかりと動物たちとエネルギーで繋がりましょう。

ACは電話をかけるのと同じです。

まずは受話器を上げて、ダイヤルをして（繋がって）相手が出たら話をします。

受話器を上げただけで、まだ「プー」と言っている段階で質問をして、「返事が返って来ない・・・」と思っている場合もあるのです。

今、自分がどの段階なのか

受話器を上げたのか

ダイヤルしたのか

相手が電話に出たのか

しっかり体感で把握しておく必要がありますね(^^♪

そして、質問の際には必ず感情を込めるようにしてください。
本当に疑問に思っていなければ質問として相手に届きません。
心の中で「言葉」を棒読みしても動物たちには伝わらないのです。

ACはテレパシーを使って行ないます。

テレパシーは言葉を使わなくて良い反面、心の「嘘」が通用しません。

「好きな食べ物は何？」という質問をする時も、「この子が何の食べ物を好きでも嫌いでも、私には興味がない。」と思っていたら、質問は相手に届きません。

質問する際は、「**本気の疑問**」の**パワー**が必要なのです。

4.

2-3歳児の人間の子どもを想定する

DolphinRose では、

AC をする際は、「人間の 2-3 歳児の子相手にお話をするつもりで AC をしましょう。」
と、お伝えしています。

少しイメージしてみましょう。

あなたのお友達から、

「うちの子ども（人間・3歳）が最近元気がないの。その原因を聞き出してくれない？」
とお願いされたとしましょう。

自分が友達の子どもとは全くの初対面だったとして、いきなり挨拶もなしに、

「どうして最近元気がないの？」
とは問いたささないですよね？

恐らく、最初はその子をリラックスさせるために、

褒めてあげたり

気分良くさせてあげたり

時にはジュースを飲ませたり

お菓子をあげたり

するのではないのでしょうか？

褒めるとは、例えば

「かっこいいおもちゃ持ってるね♪」とか

「かわいいお洋服着ているね♪」とか…

そして

「幼稚園は楽しい？」

「お母さんは優しいでしょ？」

など、本題の質問ではない質問を先にしたりしますよね(^^♪

2-3 歳児相手に話す時にとっても重要なこと・・・

それは「いつも自分が会話をリードすること」です。

2-3 歳児の子に話しかける時、

「大変申し訳ありませんが、少しだけお話しても良いでしょうか？」

と下から行きません。

「お話を聞かせてくれるかな？」

と、優しく包むように、相手に威圧感を与えないように注意しながらも、常にリードしながらお話をすると思います。

そして常に相手の状態にフォーカスして、機嫌が良いのか悪いのか気を遣うと思います。

動物たちも一緒です。

相手に敬意を払いながらも、コミュニケーションは必ず自分がリードすることが大切です。

5.

YES、NO の質問

AC では、

特に繋がり始め、お話をし始めた時には YES、NO で応えられる質問をしていきます。

とても不自然に感じるかもしれませんが、またここで 人間の 2-3 歳児とお話するときを思い出してみましよう。

初対面のため、その子が自分に人見知りをしていたとします。

「最近元気がないらしいけどどうして？」と聞いても、お返事がありません。

2-3 歳の子は、文の組み立てがまだしっかりしていませんから、答えが浮かんでいたとしてもそれを文章にまとめて相手に伝える術を知りません。

そんな時、あなたならどうしますか？

ここで「YES、NO の質問」の出番です。

「幼稚園は楽しい？」

「お友達にいじめられてない？」

「どこか痛いところあるの？」

など、

「元気がない」というワードから考えられる質問をどんどん聞いていきます。

「これ？」それとも「これ？」という感じです。

どんなに人見知りで声が出せないとしても、頭を縦に振ったり、横に振ったりして答えてくれる子は多いですよ？

いつも会話をリードして、ただ漠然とした質問を投げかけてその答えが返ってくるのを待つのではなく、**どんどん細かい「YES、NO」の質問をして答えを取りに行く。**

結構 AC は、根気がいるのです(^^ゞ

漠然な質問の例として 1 つあげると「何をしている時が一番楽しい?」です。

これは人間の子でも答えるのが難しい質問です。

これもやっぱり「YES、NO」の質問から入っていきます。

「お父さん、お母さんという時楽しい？」

「おもちゃで遊んでいる時楽しい？」

「お散歩の時楽しい？」

ここで、もしかしたら「**AC ってずっと YES、NO の質問をしなくてはいけないの?**」と、テンションが下がった方がいらっしゃるかもしれませんね。

でもご安心ください。

これはあくまで「会話の始め」だけです。

「これ?それともこれ?それともこれ?」と聞いているうちに

「違うよ。これだよ。」とか

「そうだよ。でもこれをしている時も楽しいよ」など、
自分で気づかないうちに「普通の会話」になってきます。

あくまで会話の入り口が「YES,NO の質問」だと思って下さい。

そしてそれは人間の子と一緒に。

最初は、首を振るだけの返事をしていた子が、時間が経ってハートを開いてくれたらおしゃべりしてくれるようになることってよくあります。

この「YES、NO」の質問は、実は普段私たちは無意識に出来ていて、日常で頻繁に使っています。

でも、いざ、意識して使おうとすると「あれ？ どうしてたっけ？」となって、何か特別なことのように難しく考えてしまいます。

まずは普通の会話の中で、「YES、NO」の質問をしている自分に気づいてみるところから始めてみましょう。

ACでは「質問力」は不可欠です。

普段自分がどんな風に相手を意識して質問しているのか？

一度、観察してみると良いですね(^^♪